

# 発 言 通 告 書 要 旨 (1 枚目／全 2 枚)

氏 名 稲垣 清也

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
1	(1)	①	<p>山田新市長の市政運営の基本方針について 基本方針の第 3「未来へつなぐ強くしなやかな財政」の構築について</p> <p>財政調整基金の今年度末残高について 9 月定例会では、今年度末の財政調整基金残高の見込みは約 13 億 4,000 万円との答弁があった。今回の補正予算における繰入額を反映した場合、財政調整基金の今年度末残高は、最終的にいくらになると見込んでいるのか。</p>	
		②	<p>将来を見据えた財政調整基金の残高確保について 今回の市長提出議案においては、財政調整基金の残高は中期財政計画に掲げる目標値を維持するとある。一方、さきの市長選挙における公約では「総務省の水準である 18 億円を目指す」とあるが、総務省にそのような水準があるのか。 また、市長が考える財政調整基金残高の目標額を問う。</p>	
		③	<p>プライマリーバランスの改善について 令和 8 年度の予算編成では、「選択と集中」を図ることでプライマリーバランスの改善を意識した編成を行うとしている。 事業の「選択と集中」は重要であると考えているが、持続可能でしなやかな財政運営を実現するためには、「公共施設マネジメント」の推進が不可欠であると認識している。特に、加賀市の小・中学校の規模適正化や、公立保育園再編基本計画は今後の財政運営に大きく影響する重要なテーマである。これらの点について、現時点での所見を問う。</p>	
	(2)	①	<p>基本方針の第 5「医療福祉・交通・防災の質を高める」持続可能な地域医療体制の充実について</p> <p>加賀市医療センターの今年度の収支見込みについて 令和 6 年度の加賀市病院事業会計は、約 4 億 8,000 万円の純損失であった。公立病院には、救急医療・小児科・産科といった不採算部門を担う重要な使命があるうえ、加賀市医療センターのように「断らない救急」を維持している医療機関では、単純に収益だけを追求することはできない。 また、9 月定例会での清水病院事業管理者の答弁によれば、本市と同規模である 300 から 400 床規模の自治体病院の 96% が赤字決算であったとのことであり、厳しい経営環境は全国的にも共通している。 そこで、加賀市医療センターの今年度の収支見込みについて問う。あわせて、報道では来年度の診療報酬改定が 2～3%程度の増加になる見込みとされているが、仮に診療報酬が 3%増加した場合、赤字解消につながる見込みがあるのか。</p>	

# 発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全2枚)

氏 名 稲垣 清也

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
		②	<p>加賀市医療センターの再生について</p> <p>市長は、今回の提出議案説明の基本方針においては医療分野についてはあまり触れていないが、先の市長選挙の公約では「加賀市ゆかりの専門家の協力を得て、加賀市医療センターの再生に全力で取り組み、医師不足の解消や診療科の充実を図る」と述べていた。現在、加賀市医療センターには非常勤も含めて約 60 名の医師が在籍していると聞いている。市長が言う「加賀市医療センターの再生」とは具体的に何を指すのか、その考え方や方向性について、所見を問う。</p>	
2			<p>都市計画道路合河片山津線整備の進捗状況について</p> <p>都市計画道路合河片山津線は、平成 28 年に事業を開始し、令和 2 年度に 1 件の用地未買収部分を除いて工事を完了してから既に 4 年以上もの月日が経過している。未買収用地については収用手続きに入っているとの報告を受けているが、現在の進捗状況と今後の具体的なスケジュールについて問う。</p>	
3			<p>中央図書館及び山中図書館の憩いの場への再生について</p> <p>市の財政的な理由により図書館の予算が削減され、その結果、新聞や週刊誌、月刊誌が減らされているのではないかという市民からの声を聞いた。そのような事実があるのか。</p> <p>また、冷暖房費削減により、開館時には室温が適温に達していないとの指摘もある。市民の方は、今後、デジタル目安箱やタウンミーティングにおいても提案していくとのことである。</p> <p>また、市長自身も公約において「図書館の老朽化対策や蔵書の充実に務める」ことも掲げられている。市民の憩いの場としての図書館への再生について、所見を問う。</p>	